

木下

正議員

竹野

昇議員

耕作放棄地を

治水対策に活用しては

問 高南地区、秋田川北側の農地の現状は。

答 17ヘクタールのうち、水田2・3ヘクタールは農地として管理され、8ヘクタールは耕作放棄地で、主に清水町、小川町の北側に集中している。

問 この広大な耕作放棄地を調整池にすれば、耕作放棄地対策・治水対策・景観等多くの問題が解決すると思っが、見解を伺う。

答 水田の貯留機能を維持していくことは高南地区の治水対策として重要で、有効であると考ええる。農地法に基づく協議や地権者の同意など課題を整理するなど、耕作放棄地での遊水池整備を進めることが必要で、今後台風19号のような浸水被害等が二度と発生しないように意を込めて取り組んでいきたい。

地域公共交通と

まちづくりへの活用は

問 自家用有償旅客運送は、地域外来訪者も運送できるようになり、まちづくりへの活用が期待される。所見は。

答 回遊性の向上による人の交流、外出機会の増加による地域のにぎわいの創出などの視点も必要である。現地に出向き、詳細な内容や課題を調査し効果的な運行につなげていきたい。



高南地区の北側

災害見舞金交付要綱

見直しを

問 現行の要綱には床下浸水被害世帯への見舞金はない。万全の対策をやつていけば防げたかもしれない。浸水被害に見舞金を出すことは、住んで良かったと思える袋井市にすることで大切。見直しを求める。

答 近隣の自治体でも、床下浸水を災害見舞金の交付対象にしていない。現時点で交付対象とする予定はない。

待機児童ゼロ対策

問 既存の公立幼稚園を幼保連携型認定こども園に移行させてはどうか。

答 保育所の申し込み児童数や小規模保育施設の整備状況等を踏まえ、令和2年度から段階的に進めるよう、検討していきたい。

袋井駅周辺

自転車等駐輪場

問 本年3月末に、自転車・オートバイ合わせて北口に600台と、南口に約400台の駐輪場が完成予定。これで足りるのか。収容しきれない場合、どのような対策をとるのか。

答 大丈夫である。収容しきれないという事態が起これば、責任を持ってその対応を考えていきたい。



袋井駅南自転車等駐輪場用地